

車から降りるのを こわがります……

▼本人はどう感じている？



認知機能のどこに 問題がある??

距離感や奥行きがつかめなくなっている

視覚的な情報には、形や色、空間（位置や奥行き）、動きなど、さまざまな要素があります。

このうち、空間の情報に関する認識を「視空間認知」といいます。

視空間認知に障害が生じると、距離感をつかんだり奥行きを認識したりすることが難しくなります。

これにより、食事のときに何もないところを箸でつかもうとしたり、トイレで便座にうまく座れなかったり、といった様子が見られます。車から降りるのをこわがる場合には、ちょっとした段差が断崖絶壁のように見えているのかもしれません。

とくに、レビー小体型認知症の人には、視覚を司る脳の後頭葉の障害が目立つため、このような問題が起こりやすいことが知られています。視空間認知の障害のほかにも、次のような視覚的な問題がよく見られます。

変形視	大きさや形態、向きが変形して見える 例) 地面が波打って見える	
幻視	実際には存在しないものが見える 例) 実際にはいない人が見える	
錯視	見た対象を誤って認識する 例) 電気コードがへびに見える	